



Faculty of
Science
Niigata
University

新潟大学理学部案内 2009
<http://www.sc.niigata-u.ac.jp>

CONTENTS

- P.03 理学部の教育の特色
- P.04 沿革
- P.05 数字で見る理学部
- P.06 理学部の共通施設

- 学科等の紹介
- P.07 数学科
- P.09 物理学科
- P.11 化学科
- P.13 生物学科
- P.15 地質科学科
- P.17 自然環境科学科
- P.19 理学部附属臨海実験所
- P.20 大学院自然科学研究科

- P.21 進路状況
- P.22 先輩からのメッセージ
- P.25 学内関連施設
- P.26 アクセスマップ、交通案内

21

自然の謎解きに挑む理学

私たちは、世界の不思議を明らかにすることを、真理の探求と呼んでいます。真理の解明に立ち向かう理学の研究は、20世紀に驚くほど進展しました。それは素粒子論・量子力学の構築、DNAの構造と性質の決定、地球の内部構造の解明など、ミクロな世界から宇宙にいたるまでの学問領域に及んでいます。

また、理学は、最先端の科学技術の開発のための基礎としても貢献しています。たとえば、1905年にアインシュタインが発表した、「光電効果の理論」（ノーベル物理学賞受賞）、「ブラウン運動の理論」、「特殊相対性理論」に関する3つの論文の内容が、原子力、太陽電池、素粒子観測装置カミオカンデ、GPSなどの開発に応用されています。

言いかえると20世紀の理学は、「純粋科学としての知的興味を探求」と「社会的課題解決への貢献」の2つの役割を担って、自然についての知識を豊かにするとともに、科学技術の進歩に大きな影響を与えてきたといえます。

学部長からのメッセージ



理学部長 周 藤 賢 治

個性を伸ばす少人数教育

理学部は、このような役割を担う人材の育成を教育目標にしています。この目標を達成するために、教育改革に不断の努力と工夫を行ってきました。平成17年度からは、学生の皆さんが、専門的知識を系統的に習得できるように、大学学習法・自然系共通専門基礎・自然科学の専門教育に関するカリキュラムを整備しました。

理学部の学生は、少人数クラスを基本とした講義・演習・実験・実習・セミナーなどによるきめ細かい教育と、高い水準の卒業研究により、理学の専門知識を修得しながら、総合的判断力、応用力、課題探求能力を備えた、個性豊かな未来に役立つ人材として育てています。

大学院への道 —さらに研究を深めるために—

新潟大学には、大学院自然科学研究科博士前期課程と博士後期課程があり、理学部を卒業後、さらに専門分野の勉学と研究を行うことができます。最近では理学部卒業生の約6割が大学院に進学しています。

このように、理学部は、理学の教育と研究をととして社会の進歩に貢献しています。理学のどの分野もめざましい発展をとげたとはいえ、真理の大海はまだほとんど解決されないまま、皆さんの前に横たわっています。未知の世界に意欲的にチャレンジしようとする若い皆さんが、日本海のかおりたたよう、新潟大学理学部で勉学されることを期待しています。

世紀

人と自然の共栄を
理学が支える時代

科学技術の進化・発展に 柔軟に対応できる基礎科学

21世紀を支える理学(サイエンス)

理学部で学ぶのは、全理系分野の基礎となる学問。そしてその研究は、他の理科系学部の基礎を支えています。現代の科学技術の進歩は速く、先端的分野は絶えず進化と変化を続けています。そしてこのような時代であればあるほど、『基礎的学問』は力を発揮するのです。なぜなら、『全ての基礎となる学問』は、科学技術の進化や変化に柔軟に対応することができるからです。言うなれば理学部は、最新の応用科学に『強い』学部なのです。



新潟大学理学部

新潟大学理学部は数学科、物理学、化学科、生物学科、地質科学科、自然環境科学科の6学科からなり、それぞれ2または3の大講座(専門分野)から構成されています。これらにより理学のほとんどすべての分野をカバーしています。そして卒業後は、多種多様な分野に進むことができる『可能性の広い』学部です。卒業生は、理系はもちろん、文系も含めた幅広い世界で活躍しています。

教育内容

理学部は、講義、演習、実験、実習、セミナーなど、きめ細かい教育により、学生ひとりひとりの興味と個性を伸ばす体制をとっています。また、カリキュラム(教育課程)では、基礎的な専門に加えて教養を重視し、総合的な判断力や応用力、倫理観などが身につくよう配慮されています。

教養教育に関する授業科目

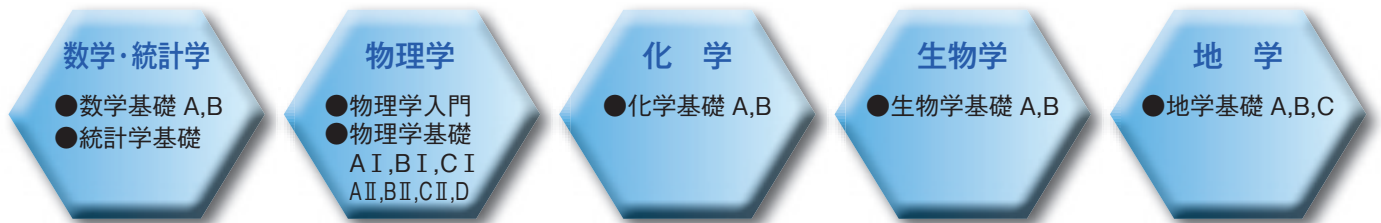
教養教育に関する授業科目は大学生としての広い知識を身につけるために用意されています。外国語や人文科学、社会科学系の科目を学びます。

大学学習法

大学での学習は高校までと大きく違う面があります。大学での学習に対応できるように、1年生の第1学期に学習の方法を学びます。

自然系共通専門基礎科目

自然系の学問を学ぶためには、数学、統計学、物理学、化学、生物学、地学の基礎を十分に固めておく必要があります。高等学校での学習では不十分であったり、また履修しなかった場合も含めて、理学部の学生として共通に必要な基礎科目を1年生で、基礎から体系的に学びます。



専門科目

各学科では、自然系共通専門基礎科目の上に、さらに進んだ専門科目が体系的に用意されていて、興味に従って各専門を深く学ぶことができます。

卒業研究

4年生になると、専攻した分野のまとめに入ります。学科により、ゼミ、課題研究等の名称で、少人数に分かれて専門をより深く学びます。これらの卒業研究等を通じて、自然科学の見識と応用力を身につけることができます。

大学院自然科学研究科

学部卒業後も希望すれば、さらに高度な教育研究へ進むこともできます。新潟大学では、理学部・工学部・農学部の上に位置する区分制大学院、大学院自然科学研究科が設置されています。この大学院は「従来の学問分野にとらわれることなく、異なる分野の教員が協力しあって教育・研究指導に当たり、高度な専門性の高い研究能力のみでなく、幅広い視野と創造性豊かな人材の養成を目指す。」との理念で設立されました。

博士前期課程(2年)には6専攻、博士後期課程(3年)には5専攻を設け、学部と大学院の連携にも配慮して、大学院における5年一貫の教育研究体制が整っています。

博士前期課程

自然構造科学専攻
材料生産システム専攻
生命・食料科学専攻
環境共生科学専攻
数理・情報電子工学専攻
人間支援科学専攻

博士後期課程

自然構造科学専攻
材料生産システム専攻
生命・食料科学専攻
環境共生科学専攻
情報理工学専攻

沿革

- 1949年5月 国立学校設置法の公布により、理学部は数学科、物理学科、化学科、生物学科、地質鉱物学科の5学科で発足。
- 1953年8月 理学部附属臨海実験所を佐渡郡金泉村大字達者に設置。
- 1955年7月 理学専攻科を設置。
- 1965年4月 大学院理学研究科修士課程(数学、物理学、化学、生物学、地質鉱物学専攻)を設置。これに伴い理学専攻科を廃止。
- 1970年5月 新潟市西大畑地区から、新潟市五十嵐地区の新校舎に移転。
- 1978年4月 積雪地域災害研究センター設置。
- 1985年4月 大学院理学研究科物質科学専攻(後期3年博士課程)設置。
- 1987年4月 大学院自然科学研究科博士課程(物質科学、生命システム科学、生産科学および環境科学専攻)設置、大学院理学研究科物質科学専攻は同研究科に移行。
- 1994年4月 自然環境科学科を設置。地質鉱物学科を地質科学科に改組。
- 1995年4月 大学院理学研究科、工学研究科および農学研究科が自然科学研究科前期課程に再編成され、自然科学研究科が前期2年の課程および後期3年の課程に区分する博士課程となる。

数

字

で見える 理学部

募集人員

学 科	入学定員	募 集 人 員			
		推薦入学	前期日程	後期日程	3年次編入学
数 学 科	35	5	24	6	} 10
物 理 学 科	45	5	32	8	
化 学 科	35	5	25	5	
生 物 学 科	20	3	14	3	
地 質 学 科	25	5	14	6	
自然環境科学科	30	6	18	6	
理 学 部 合 計	190	29	127	34	10

※平成20年度の入試によるデータです。詳細は平成21年度の募集要項をご覧ください。

学生数一覧

20.5.1 現在

学 科	学年定員	在 籍 者 数				学科計
		1年	2年	3年	4年	
数 学 科	35	38	42	41	44	165
物 理 学 科	45	48	70	54	41	213
化 学 科	35	45	43	39	35	162
生 物 学 科	20	22	23	25	26	96
地 質 学 科	25	27	32	26	24	109
自然環境科学科	30	31	33	39	33	136
理 学 部 合 計	190	211	243	224	203	881

教員数一覧

20.5.1 現在

学 科 等	教 授	准教授・講師	助 教	学科計
数 学 科	8 (1)	4 (1)		12 (2)
物 理 学 科	7 (3)	6 (2)	3 (2)	16 (7)
化 学 科	6 (1)	4 (1)	(1)	10 (3)
生 物 学 科	5 (1)	3 (1)	1	9 (2)
地 質 学 科	5 (1)	5 (1)		10 (2)
自然環境科学科	8	8		16
附属臨海実験所	1		1	2
理 学 部 合 計	40 (7)	30 (6)	5 (3)	75 (16)

() 内の数字は大学院専任を外数で示しています。

取得できる 教育職員 免許状・資格

	教育職員免許状	各種資格	
数 学 科	中学校1種(数学) 高校1種(数学、情報)	学芸員 (資格)	
物 理 学 科	中学1種(理科) 高校1種(理科)		
化 学 科			危険物取扱主任者 (甲種の受験資格)
生 物 学 科			技術士補(資格) 測量士補(資格)
地 質 学 科			危険物取扱主任者 (甲種の受験資格)
自然環境科学科			



理学部の共通施設

[サイエンス ミュージアム]

Science Museum

理学部正面玄関を入ってすぐ左手にあり、貴重な鉱物・岩石・化石の標本や学科別の紹介が展示されています。

開室は毎週火・水・木曜の午前11時～午後3時でどなたでもご自由にご覧いただけます（無料）。



[就職資料室] Carrier Services

就職資料の閲覧、PC端末の利用が可能で、就職活動の強い味方です。



[リフレッシュルーム] Refresh Room

休憩や昼食、勉強も可能な学生用のスペースで各階に設置されています。



[マルチメディア教室]

Multimedia Computer Room

情報処理教育や情報収集、レポート作成や実験データの解析を行っています。

[理学部共通図書室]

Library of the Faculty of Science

主に学生用の専門図書、雑誌を配置しています。



～ 21世紀の科学を しっかり支える数学～

数学は古代に人類社会の発展のなかで生まれ、数千年の歴史の中で、進化し深められ、精緻で壮大な知的体系を作り上げてきました。そしてその成果は多くの科学の分野に応用されています。また近年のコンピュータの爆発的発展と情報化社会の発達、科学における数学と情報科学の位置を益々重要なものとしています。現在では数学的手法は理工系の学問や情報科学などだけでなく人文科学、社会科学でも必須のものです。数学を学ぶことで身につけることのできる秩序立てた論理的な考え方と問題解決能力は、世の中から非常に高く評価されています。

このように数学はあらゆる科学の基礎を支える最も重要な基幹学問の一つです。そして数学的なものの考え方は世の中で大変有用であることが分かっています。これからの高度情報化社会では、それを支える情報科学および数学の重要度はいよいよ増えています。このように数学は21世紀においても重要な学問として、益々発展していくでしょう。

本数学科では、高度情報化社会の進展に対応した、純粋数学の基礎をしっかりと学ぶことができる授業体系を用意しています。そしてそれだけでなく、情報科学やコンピュータについての授業も重視しています。例えば、「数学」の教員免許だけでなく、高等学校「情報」の教員免許を同時に取得することも可能です。このように本数学科で学ぶことにより、純粋数学の基礎的素養と、情報科学の知識と応用力を身につけることができます。そして、卒業生は理系のみならず、社会の色々な分野で活躍をしています。

コンピュータを用いた授業 [Computer] : コンピュータ利用は色々な面で必須です。電子メール等は勿論ですが、数学科では多くの情報関係の講義、演習、実習が開講されています。

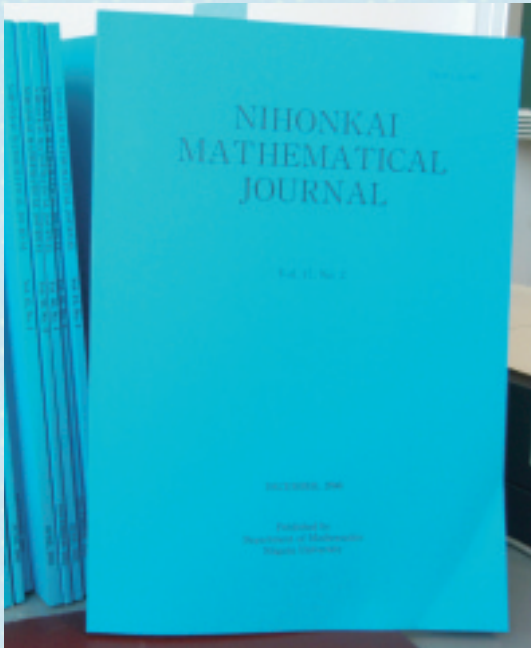




文献室 [library] : 数学科では約 400 種の専門雑誌、約 7000 冊の和文専門書、および約 15000 冊の欧文専門書を所蔵しており、学習、研究に利用しています。



ゼミ [seminar] : 数学講究は 4 年生必修の少人数ゼミ形式の授業で、各教員が開講しています。興味に応じて分野を選択し、欧文の専門書を使って本格的な数学を学びます。



Nihonkai Mathematical Journal : 数学科では欧文の数学専門誌 Nihonkai Mathematical Journal を発行しています。この雑誌には国内外の研究者による最新の研究成果が掲載されています。国内外で発行される多くの数学専門雑誌と交換され、高い評価を受けています。



授業 [lecture] : 1 年生では基本的な科目を必修科目として学びます。2 年生以上の科目の多くは選択科目です。興味・目的に応じて選択して学びます。写真は演習の一コマです。



新入生合宿研修 [guidance for freshmen] : 入学直後、新入生を対象に大学での勉学や生活についてのガイダンスや親睦を兼ねて合宿研修を行います。

平成 20 年度 数学科 専門教育に関する科目

1 年		2 年		3 年		4 年	
第 1 学期	第 2 学期	第 1 学期	第 2 学期	第 1 学期	第 2 学期	第 1 学期	第 2 学期
自然系共通専門基礎科目							
スタディ・スキルズ (数学学習法)	微分積分学Ⅱ	微分積分学Ⅲ	集合と位相入門	位相空間論	複素解析学Ⅱ	数学講究	
微分積分学Ⅰ	線形代数Ⅱ	線形代数Ⅲ	微分方程式論	複素解析学Ⅰ	関数解析学		
線形代数Ⅰ	基礎数学演習Ⅱ	情報基礎数学Ⅰ	代数入門	実解析学	代数系Ⅱ		
基礎数学演習Ⅰ	計算機概論	プログラミング概論	数値解析	代数系Ⅰ	幾何学Ⅱ		
情報社会論	計算機概論実習	プログラミング演習	情報基礎数学Ⅱ	幾何学Ⅰ	トポロジー		
		デジタル表現論	計算システム	確率論	情報統計学		
		デジタル表現実習	計算システム実習	情報管理学	グラフとネットワーク理論		
			数学英語	情報計画システムⅠ	ネットワーク実習	(集中講義)	
				情報計画システムⅡ	情報産業論	知能システム論	構造数理論特別講義Ⅰ
						数理解析特別講義Ⅰ	構造数理論特別講義Ⅱ
						数理解析特別講義Ⅱ	情報数理論特別講義Ⅰ
							情報数理論特別講義Ⅱ
基礎ゼミⅢ	基礎ゼミⅤ	基礎ゼミⅢ	基礎ゼミⅤ	基礎ゼミⅢ	基礎ゼミⅤ		
基礎ゼミⅣ		基礎ゼミⅣ		基礎ゼミⅣ			

大学学習法 (必修)
 必修科目
 選択科目

物理学科

Physics

<http://physics.sc.niigata-u.ac.jp>

～自然の謎に挑む～

「物理学とは何だろうか」のなかで朝永振一郎博士（1965年ノーベル物理学賞受賞）は、物理学は自然界に起こる現象の奥に潜む法則を、観察事実に照らして探求するものと述べています。このような物理学の方法がガリレイ、ニュートンらによって確立されて以後、現在までの発展には目覚ましいものがあります。素粒子、原子核や原子分子の極微の世界から壮大な宇宙までを対象にして、物質は何からできているのか、宇宙の始まりはどのようにして起こったかを探求できるようになりました。また、身の回りにある物質の性質や構造の探求にとどまらず、未知の物質の探索設計も真剣に考案されつつあります。コンピュータ、高度医療機器、エネルギー関連等々の広範な科学技術の基礎は物理学によって支えられています。21世紀においても謎に挑戦しながら発展していくことでしょう。

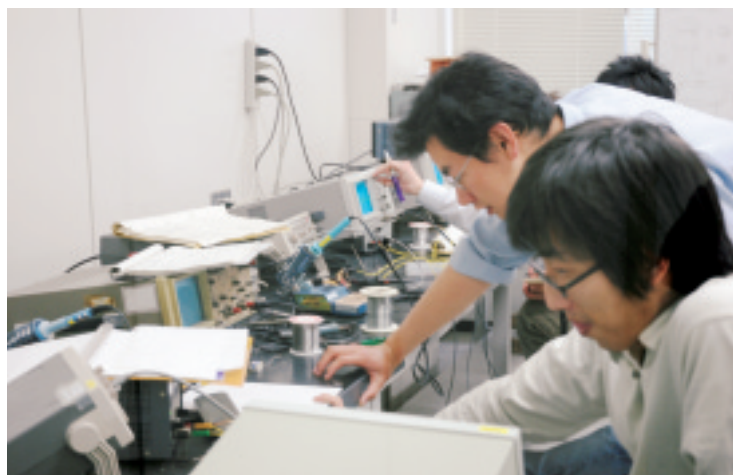
物理学科では古典物理学から始めて現代物理学の基礎までをしっかり身につけて大学院で高度な研究ができるように、講義、実験、演習を配置しています。少人数ゼミやインターンシップの特別科目も設置しています。4年生の課題研究では専門性の高い具体的テーマを課して、少人数の密度の高い指導を目指しています。卒業後は、未知の課題に直面したときの処理能力を活かして様々な分野に就職し、活躍しています。また多くの学生が、研究をすすめるために大学院へ進学します。



ヘリウム液化システム：右から液化機本体（青：リンデ社製 TCF-50、液化能力毎時 120L）、液化ヘリウム貯蔵（白：2,200L）、液化ヘリウム自動汲み出し装置。高価なヘリウムを液化リサイクルし、ナノテク、超伝導、磁性などの物質科学の研究に必要な低温実験の基盤設備である。

[Helium Liquefiers System: Right to left, main liquefiers system (blue: Linde Krotechnik, TCF-50, 120L/h), Liquid helium storage tank (white: capacity 2,200L), automatic controlled filling device. For the recycle of helium resources to study nanotechnology, superconductivity, magnetism, etc... by use of low-temperature apparatus.]

物理学実験（上：エレクトロニクス、中：X線装置、下：NMR装置）
[Laboratory Work (Upper: Electronics, Middle: X-ray, Lower: NMR)]



化学科

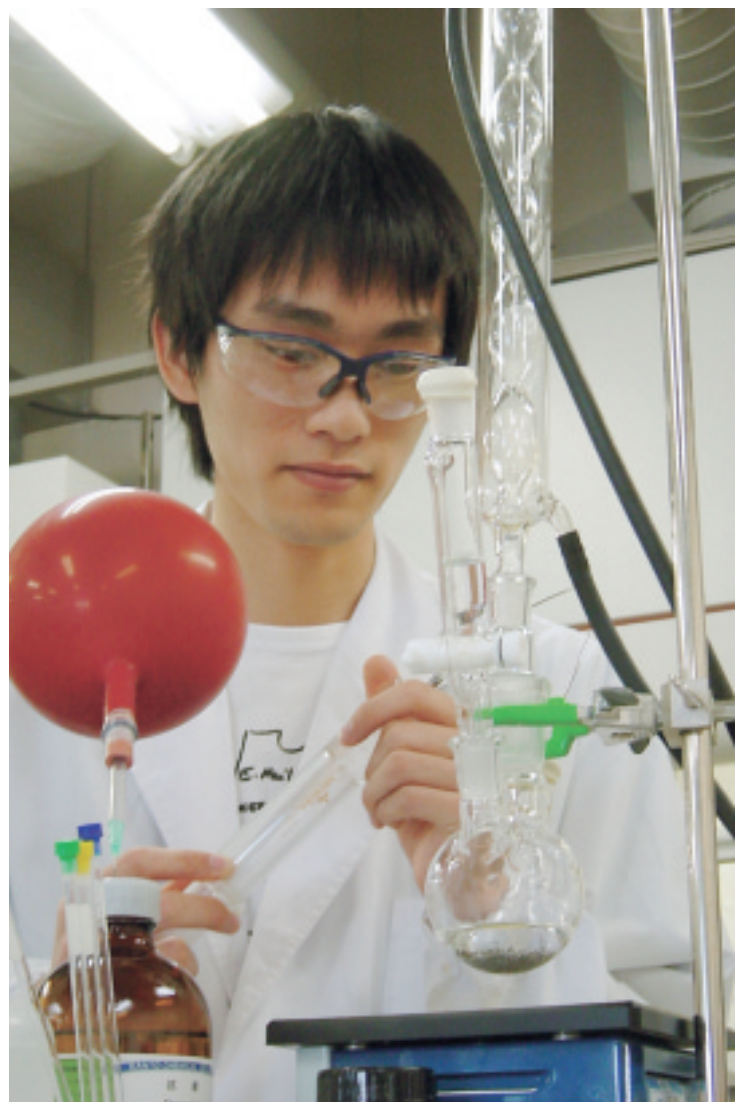
Chemistry

<http://chem.sc.niigata-u.ac.jp>

～化学が拓く21世紀の夢～

化学は宇宙空間から人間の体内まで、広い範囲にわたって存在する物質の特性や反応性の原因を探求して物質世界の基盤を明らかにしてゆく一方、これまでに存在しなかった新しい機能を持つ物質を創製してゆく科学であり、化学の対象となる物質は無限の可能性と多様性を秘めています。化学は数学、物理学、生物学などの基礎科学、工学、農学、医学などの応用科学に至る分野にも深く関わりを持ちながら発展を続け、21世紀においてもその役割はますます重要になっています。

化学科は高度な知識と経験を身につけた学生を育て、社会に送り出すことを目的としています。そのため、入学から卒業までに化学の基本から専門領域までを段階的に理解できるよう各学年にふさわしい講義と実験を配置しています。卒業年次である4年生は、各学生が希望する専門分野（核・放射化学、分析化学、凝縮系化学、物理化学、有機反応化学、生化学、量子化学）の研究室に配属し、課題研究（卒業研究）とセミナー（演習）に重点を置いた教育が行われます。教員1人に4年生学生2～3人という少人数でのきめ細かい指導が特徴であり、研究室の先輩（大学院生）も加わり最先端の研究に取り組みます。意欲ある学生は更に研究を続けたいという希望から大学院に進学します。本学科では毎年卒業生のうち50%程度が大学院へ進学し、研鑽を積んでいます。



（課題研究）アルゴン雰囲気下での有機金属化合物の調製
[Preparation of organometallic compounds in an argon atmosphere]
空気中では分解してしまう有機金属化合物を化学的に不活性な希ガス・アルゴン中で調製しています。

（課題研究）レーザー光を利用した分子性薄膜の磁気抵抗効果実験
[Experiments of magnetoresistance effect on molecular thin films using a laser]
光で誘起される磁性イオンの運動を電場や磁場で制御しています。



学生実験 [Laboratory practice]
1～3年生では講義だけでなく、実習科目として様々な化学分野の実験を行います。実験技術だけでなく、レポート作成を通じた教育によって論理的な文章の記述能力と、文献調査能力を身につけることができます。



課題研究発表会 [Presentation of graduation thesis]
4年生では研究室に配属して課題研究に取り組み、卒業前にその成果を化学科メンバー（教員・学部生・大学院生など）の前で発表します。

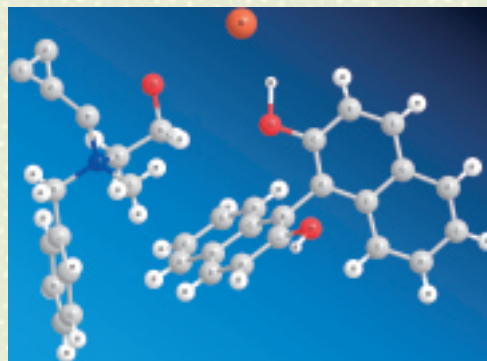


(課題研究) カラムクロマトグラフィー法による有機化合物の精製
[Purification of organic compounds by column chromatography]
分子とシリカゲル表面との水素結合力を利用して有機化合物を精製しています。



(課題研究) 高速液体クロマトグラフィーを使う有機化合物の分離・精製実験
[Isolation and purification of organic compounds by high performance liquid chromatography]
左写真のカラムクロマトグラフィーを機械化・高性能化した装置です。

(課題研究) X線結晶構造解析による有機分子の結晶構造の決定
[Structure determination of organic compounds by X-ray structure analysis]
化合物がきれいな結晶を形成した場合、X線を照射することで分子の構造を見ることができます。



平成20年度 化学科 専門教育に関する科目

	1年		2年		3年		4年	
	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期
自然系共通専門基礎科目								
基礎実験研究	スタディスキルズ(化学学習法)	化学実験Ⅰ		化学実験Ⅱ	物理化学実験	化学英語	課題研究	
				無機化学実験	有機化学実験	化学コロキウム	演習	
物理化学系		化学熱力学	化学統計力学	量子化学Ⅰ	量子化学Ⅱ	固体化学	凝縮系化学	特論(集中)
						化学反応論	分子分光学	
無機分析系		無機化学Ⅰ	無機化学Ⅱ	基礎機器分析		錯体化学	無機化学Ⅲ	
		分析化学Ⅰ					分析化学Ⅱ	
有機生化学系		有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅲ	有機化学Ⅲ	構造有機化学	放射化学	
			生体分子化学Ⅰ	生体分子化学Ⅱ	生体分子化学Ⅱ	有機機器分析	反応有機化学	生体分子化学Ⅲ
							生化学Ⅰ	

大学学習法(必修)
 必修科目
 選択科目

生物学科

Biology

<http://www.sc.niigata-u.ac.jp/biologyindex/biologyindex.html>

～生きものの 世界のなぞに挑む～

生物学科は、医学・薬学・農学など応用科学にもつながる生命科学の基礎を学ぶ学科です。生命現象に接したときに感じる感動や素朴な疑問を大切に、自らの手で謎を解き明かしたいという意欲を持ったひとに向いています。

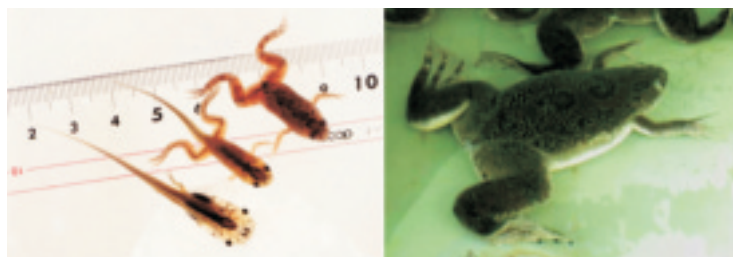
生物学の学問分野は広いので、限られた数の教員で全分野を網羅することは各大学とも困難です。そのような状況下で、動物・植物のどちらかにかたよることなく、比較的バランス良く生命科学の基礎を学ぶカリキュラムを用意しているのが本学科の特徴です。また、少人数の学科であるため、個々の学生に目が行き届きやすく、きめ細かい指導が可能です。

入学後最初の必修科目である「生命科学への招待（生物学学習法）」では、自学自習が高校よりもいっそう重要となる、大学での学び方をガイドします。1年2学期から2年1学期にかけての必修の4つの講義科目「基礎植物学」、「基礎生物化学」、「基礎細胞生物学」、「基礎細胞遺伝学」—と2つの実習科目「基礎生物科学実習Ⅰ、Ⅱ」では、2、3年向けの選択科目で扱われる、より発展的な内容を学ぶための基礎固めをします。3、4年向けには他大学教員による集中講義（生物学特論）もあり、本学科教員でカバーしきれない分野や先端研究の話が聞けます。

4年次の卒業研究（課題研究）は必修で、配属先として、生物学科の研究室のほか、佐渡の臨海実験所も選択できます。課題研究に演習という研究室中心の生活になり、翌年2月に行われる成果発表会を目指して励むことになります。



課題研究発表会の一コマ
[Presentation of graduation thesis.]



新潟大学で系統維持されている両生類としては世界で唯一のアフリカツメガエル純系のJ系統（日本で系統化されたためJと命名）。左図は変態の様子。右図は5年齢ぐらいの成体。

[J strain of *Xenopus* was established taking over 30 years and it was named "J" for initial of Japan.]



基礎生物科学実習Ⅱ（2年次）。アフリカツメガエル胚の正常発生を観察しています。

[Laboratory Practice on Fundamental Biology II]

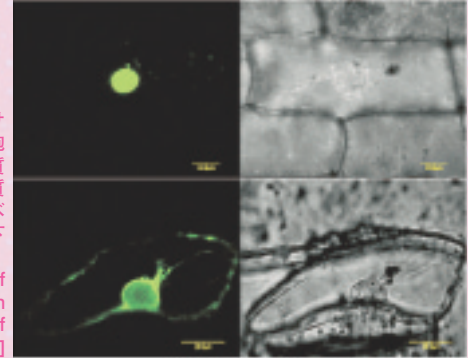


顕微鏡観察。実習では一人一人が光学顕微鏡を操作して動物や植物の様々な組織・細胞を観察します。

[Microscopic studies of plant and animal cells]



生物化学実習 (2年生)。密度勾配遠心法によってジャガイモ塊茎からミトコンドリアを取り出します。
[Isolation of mitochondria from potato tubers]



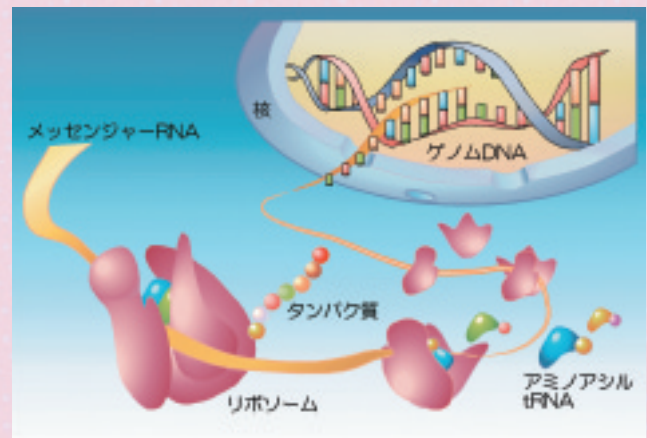
オオムラサキユツサ (上段) の葉の表皮細胞に蛍光標識タンパク質を発現させ、タンパク質の細胞内局在性を調べた。中段：核に局在。下段：細胞質に局在。
[Transient expression of fluorescent proteins in leaf epidermal cells of *Tradescantia virginiana*]



分子生物学実習 (3年次)。大腸菌からプラスミドDNAを抽出しています。[Laboratory Practice on Molecular Biology]



4年生演習。4年生になると少人数によるディスカッション形式の授業が毎週あります。[Exercise on Developmental Biology.]



遺伝子上の情報に従ったタンパク質合成のしくみ
[Molecular mechanism of protein biosynthesis according to the genetic information.]

平成 20 年度 生物学科 専門教育に関する科目

		1年		2年		3年		4年	
		第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期
自然系共通専門基礎科目									
講義・演習	生命科学への招待 (生物学学習法)	基礎植物学	基礎生物化学	分子生理学	遺伝学	植物細胞生物学	植物生理学演習		
			基礎細胞生物学	植物生理学II	植物分子生理学	生物化学	分子生物学演習		
			基礎細胞遺伝学		分子生物学	生体情報学	発生生物学演習		
			進化生物学I		細胞生物学	発生のプログラム	免疫生物学演習		
		植物生理学I		進化生物学II	植物細胞生理学	細胞生物学演習			
		系統動物学 (集中)		植物発生生理学	ホルモンの生物学	細胞生物学演習			
		原書講読		免疫生物学	動物機能制御学	内分泌学演習			
実習					生物学特論IA, II A, III A (集中)	生物学特論IV A, VA, VIA (集中)			
		基礎生物科学実習I	基礎生物科学実習II	生物化学実習	分子生物学実習	動物形態発生学実習			
			植物形態発生学実習	情報数理生物学実習	動物生理学実習	植物分子生理学実習			
研究					臨海実習I (集中)				
							課題研究I	課題研究II	

大学学習法 (必修)
 必修科目
 選択科目

地質科学科

Geology

<http://geo.sc.niigata-u.ac.jp>

～君も地球探求の フロンティアへ!～

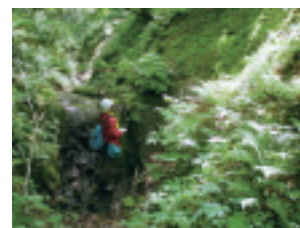
私たちが生存しているかけがえのない地球は活発に活動を続けています。阪神大震災・中越地震や有珠山の噴火は地球が生きていることを示しています。地球は生成されてから様々な変動を被り、生命を育み、現在の姿へと変化してきました。

最近、地球環境の危機が大きな関心を集めていますが、こうした問題に対処していく上でも、現在の地球に起こっている様々な現象とそのメカニズムや地球のこれまでの歴史を理解することが大変重要です。生命・生物は地球の歴史のなかで何回もの危機を経験しながら、新しい生物群へと変化してきましたが、最近では生物群の変遷と地球の変動との関係も明らかになってきています。

地質学は地球のこうした発展過程や現在の変動のメカニズムを解明する上で大きな役割を果たしてきました。また、鉱物資源や石油・地熱などのエネルギー資源の探鉱や開発のための基礎科学でもあり、土木・建設工事の基礎地盤調査や、地震・火山・地滑りなどの自然災害の予測や制御を進める上でも重要な基礎科学となっています。

本学科では、学科内に地質学専修コースと地質エンジニアリングコースを設け、地殻・マントルを構成している地層、岩石、鉱物の性質やその形成過程、生物の変遷・進化、そして地球の変動のメカニズムやその歴史の変遷など、身近な問題からグローバルな問題まで、少人数教育できめの細かい指導と活発な研究に取り組んでいます。また、野外実習を重視し、地質調査能力の高い人材の育成をめざしています。

さまざまな実習や学生研究を通じ、野外で見られる地質現象に基づいて地球のダイナミックな構成・歴史を探求します。
[You investigate the Earth's interior and its history on the basis of geological field work.]





鉱物の化学組成分析とカソードルミネッセンス像の観察に用いる電子顕微鏡 [Scanning Electron Microscope with Energy dispersive X-ray spectroscopy (SEM-EDS)]



岩石学実験Ⅰ・Ⅱ [Practice in petrography I and II] の授業では、1人1台ずつの双眼偏光顕微鏡を用いて実習をおこないます。



野外実習Ⅱ [Geological field trip] では、約1週間をかけて日本の代表的な地層・岩石・鉱物を見学してまわります。写真は、四国、五色浜の四万十帯の地層を観察している様子。

■地質科学科・地質エンジニアリングコースの学習・教育目標
(日本技術者教育認定機構 (JABEE) 認定の教育プログラム)

- (A) 良識ある技術者に必要な人文社会科学などの基礎および語学・コミュニケーション能力を修得する。
- (B) 岩石・鉱物・地層の物質的性質について理解し、知識・技術を修得する。
- (C) 岩石・鉱物・地層の歴史的性質について理解し、知識・技術を修得する。
- (D) 地質学および科学技術と社会との関わり歴史と課題について学び、課題解決のためのデザイン能力を修得する。
- (E) 野外の地質に関するデータ取得とまとめの基本的技術を修得する。
- (F) 野外の産状に密着した地質学的課題を解決する計画を立案し、継続的・自主的に情報を取得し、総合的に解析する。これを通じ、デザイン能力を修得する。
- (G) 収集した情報を整理・再構成して自ら表現する能力を修得する。
- (H) 広範な問題解決のために必要な自然科学の多様な分野の基礎および技術者倫理を修得する。

本学科の学生は、3年次に進学した時点で2つのコースのどちらかに所属することになります。地質学専修コースは、地質学を基本として理学一般の基礎的な力量をつけることを基本に、副専攻や教員免許取得等も含め、幅ひろく自然科学・人文社会系分野を学ぶことに意欲をもつ学生向けのコースです。地質エンジニアリングコースは、特に地質技術者として社会に貢献できるための十分な基礎学力を習得することに意欲のある学生向けのコースです。地質エンジニアリングコースは日本技術者教育認定機構の認定を受けており、地質エンジニアリングコースの修了生は「技術士」一次試験が免除となり申請により「技術士補」の国家資格が得られます。

地質科学科のコース履修制度

4年	地質学	地質エンジニアリング
3年	専修コース	コース
2年		
1年		

平成20年度 地質科学科 専門教育に関する科目

1年		2年		3年		4年	
第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期
自然系共通専門基礎科目							
地質科学学習法 地質調査法基礎Ⅰ	地質調査法基礎Ⅱ	地質調査法Ⅰ 岩石学実験Ⅰ 地質調査法実習Ⅰ 古生物学A 地層学A 海洋生物学実験	地質調査法Ⅱ 岩石学実験Ⅱ 地質調査法実習Ⅱ 地史学原理 鉱物学A 鉱物結晶学実験 テクトニクス 古生物学B 資源・環境地質学	コミュニケーション実習 地史学A 岩石学A 構造地質学 地層学B 環境地質学A 地質構造解析法 第四紀環境学 日本とアジアの地質 海洋地質学	地学英語 地史学B 岩石学B 鉱物学B 固体地球化学 環境地質学B 地球物理学	課題研究(卒業論文) セミナー	
野外実習基礎		野外実習Ⅰ		野外実習Ⅱ 土木地質学 石油地質学 古無脊椎動物学実験	野外実習Ⅲ 応用地質学実習 環境地質学実習	地球化学分析法 水質化学分析法	
地球科学特別講義Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ							

 大学学習法(必修)
 必修科目
 選択科目

自然環境科学科

Environmental Science

<http://www.sc.niigata-u.ac.jp/environment/>

～かけがえのない地球～

私たちの母なる星の環境問題が21世紀の大きなテーマの一つです。人間と地球環境とのよりよい調和を未来へ存続させていくために何をしなければならないかが今求められています。

地球環境システムは、もともと複合的で多様な因子から成り立っています。したがって、私たちの学科では、物理学をはじめ化学、生物学、地学の基礎をしっかりと身につけた上で、総合的で専門的な研究に取り組めるような教育を行っています。このことから、基礎的科目、コア科目、発展的科目へと次第に専門性が増すように講義・演習・実験・野外実習が組み込まれています。また人間生活や産業活動と密接に関連した経済学・法学などの環境社会学など、より広い自然観を養うことも重要視しています。さらに、少人数によるゼミナールや自然科学館・水族館・植物園をはじめ一般企業での仕事の学習を目的としたインターンシップなどの特別科目も設けられています。4年次の課題(卒業)研究は、少人数での密接な指導を通して個別のテーマで研究を行い、その成果を広く市民に知ってもらうために、公開発表会を行っています。

卒業後は、地球規模の環境問題に取り組むことができる広い応用力を生かして、さまざまな分野で活躍しています。また、卒業生の約半数は新潟大学をはじめ他の大学の大学院に進学し、より高度な研究に携わっています。



野外実習(上:佐波の磯採集、中:角田山山麓の露頭観察、下:旧足尾銅山)
[Field course of environmental science at Sado (upper), the foothills of Kakuta-yama (middle) and the old copper mine of Asio (lower).]

理学部附属臨海実験所

Sado Marine Biological Station

臨海実験所は、理学部附属の教育研究施設です。

佐渡島の西北に位置し、達者湾という小さな入り江を介して直接日本海の外洋に面しています(写真)。生物学科・自然環境科学科向けの授業を開講しているほか、両学科の臨海実習も行っています。



臨海実験所全景。手前左手より研究棟、宿泊棟、艇庫。奥に日本海外洋を望む。
[General view of the Sado Marine Biological Station]



実習調査船アイビス船上からの海洋プランクトンの採集
[Collection of marine plankton by the research boat, Ibis]



磯の生物のシュノーケリング観察
[Snorkeling observation at the rocky beach]



磯の生物の生態調査
[Ecological study at the rocky beach]

理学部附属臨海実験所(相川)へのアクセス

□新潟から両津まで

●船

カーフェリー／2時間20分

ジェットfoil／1時間

●飛行機

新潟空港より／25分

□両津から相川まで

車で約50分

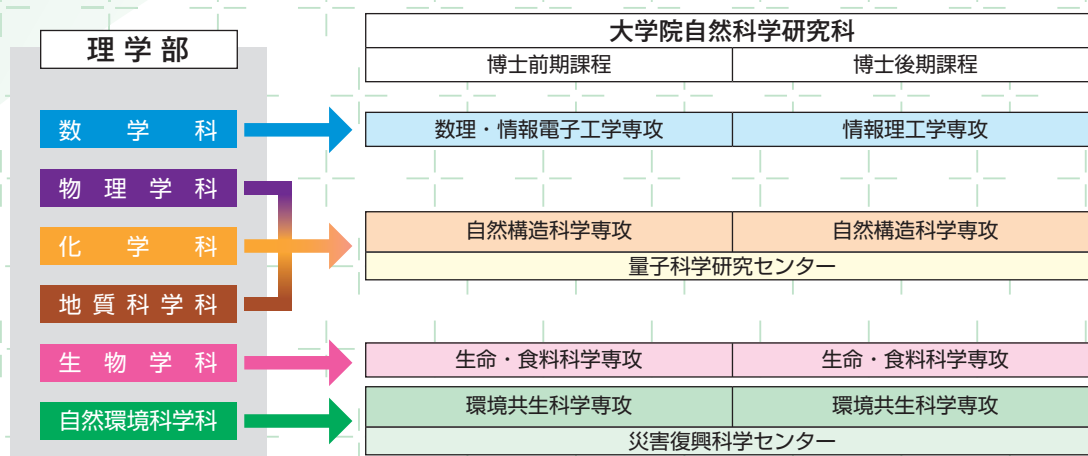


大学院自然科学研究科

Graduate School of Science and Technology

学部卒業後、大学院へ進学し、さらに研究を続けることもできます。

自然科学研究科は博士前期課程（2年）と博士後期課程（3年）をもつ区分制大学院です。前期課程を修了すると修士の学位が、後期課程を修了すると博士の学位が授与されます。



共通管理棟（左）と情報理工棟（右）。
[Main Building (left) and Information Science and Engineering Building (right)]



物質生産棟（左）と生命環境棟（右）。
[Material Science and Technology Building (left), and Life Science and Environmental Science Building (right)]

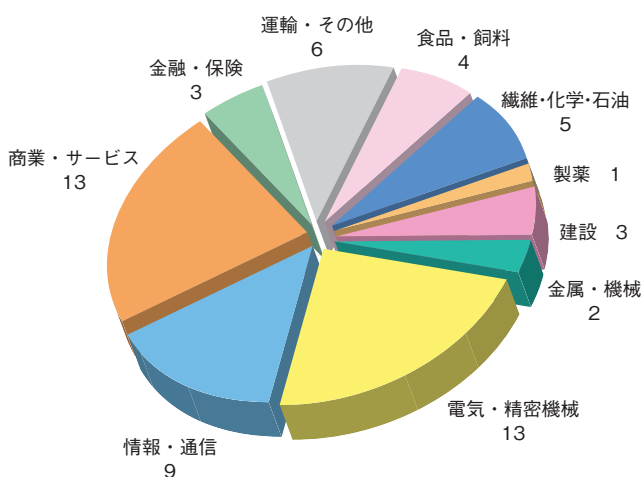


進路状況

平成19年度 理学部卒業生

	数学科	物理学科	化学科	生物学科	地質科学科	自然環境科学科	理学部
進学	13	36	15	15	14	17	110
教員(含む非常勤)	4		1			2	7
公務員	2		2		2	1	7
民間企業							
食品・飼料			1	1		2	4
繊維・化学・石油			4	1			5
製薬						1	1
建設					2	1	3
金属・機械	1					1	2
電気・精密機械	2	11					13
情報・通信	3		4		1	1	9
商業・サービス	2		2	4	3	2	13
金融・保険	1					2	3
教育学習支援							0
運輸・その他	2		1	2	1		6
その他	3	1	1		1	2	8
合計	33	48	31	23	24	32	191

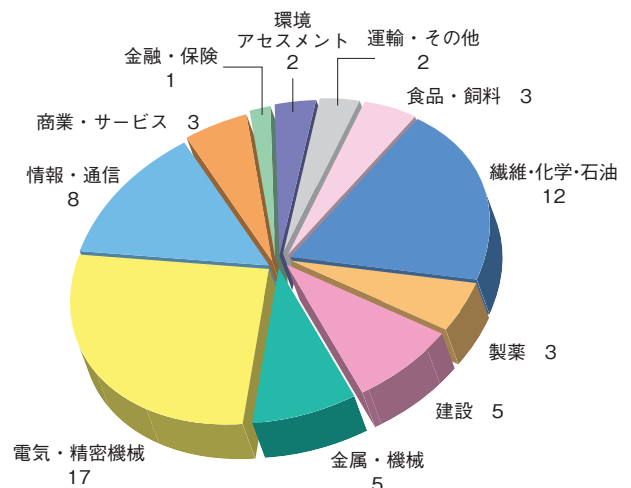
学部卒業生 民間企業内訳



平成19年度 大学院自然科学研究科(博士前期課程)理学系修了生

	数学系	物理学系	化学系	生物学系	地質科学系	自然環境科学系	理学系
進学	4	8		2	5	1	20
教員(含む非常勤)	4	1		2	1		8
公務員		2					2
民間企業							
食品・飼料			1	1		1	3
繊維・化学・石油		1	6		4	1	12
製薬			2	1			3
建設					5		5
金属・機械	1	3	1				5
電気・精密機械		12	3			2	17
情報・通信	4	1	1	1		1	8
商業・サービス			1		1	1	3
金融・保険	1						1
教育学習支援							0
環境アセスメント						2	2
運輸・その他	1					1	2
その他		1		1		1	3
合計	15	29	15	8	16	11	94

修了生 民間企業内訳



平成18年度 理学部卒業生

	数学科	物理学科	化学科	生物学科	地質科学科	自然環境科学科	理学部
進学	14	38	19	17	13	17	118
教員(含む非常勤)	10	4	2			1	17
公務員		1	1			3	5
民間企業							
食品・飼料			1	2			3
繊維・化学・石油	1		1	1		1	4
製薬			2				2
建設					1	1	2
金属・機械		5	2				7
電気・精密機械	2	5		1		4	12
情報・通信	2	1	2	2	3	1	11
商業・サービス	1	1	2	1	2	4	11
金融・保険	3	1					4
教育学習支援	1	1	1	1		1	5
運輸・その他		1			2		3
その他	4		4	2		4	14
合計	38	58	37	27	21	37	218

平成18年度 大学院自然科学研究科(博士前期課程)理学系修了生

	数学系	物理学系	化学系	生物学系	地質科学系	自然環境科学系	理学系
進学	4	8	2	4	1	1	20
教員(含む非常勤)	5	2	3		1		11
公務員			1	1	1	2	5
民間企業							
食品・飼料			2	2		1	5
繊維・化学・石油			12	3		3	18
製薬				1			1
建設					3		3
金属・機械							0
電気・精密機械		4	2	1		1	8
情報・通信	2	12			3		17
商業・サービス		3	2	1			6
金融・保険					1		1
教育学習支援	2						2
環境アセスメント						2	2
運輸・その他		1	2				3
その他	1		3				4
合計	14	30	29	13	10	10	106

数学科

平成17年度卒業
平成19年度大学院自然科学研究科
博士前期課程修了



新潟明訓高校教諭
坂本 真理沙

数学科卒業生の坂本です。

大学の数学とはどんなものか？私は大学の数学とは、解答までの迷路を歩く、または、その地図を作る作業に似ていると思います。その過程では、ひとり考え込んだり、ときには、仲間や先生と議論になるときもあります。

では、ゴールにはいつ着くのか…数学は、実に突然、「わかった」という瞬間がきます。それがゴールといっているでしょう。それは、なにものにも変えられない上、同じことでもう一度感動することのできない貴重な一瞬です。ひとつのゴールに向かって日々冒険気分です。

こうして、自分のペースで自由に考えたり、議論したりすることは結果の有無なしに楽しいことに気付くでしょう。

新しい数学者の誕生を楽しみにしています。

数学科

平成15年度卒業
平成17年度大学院自然科学研究科
博士前期課程修了



新潟高校教諭
江村 英里花

「大学の勉強は、どの科目も一筋縄にはいきません！とにかく、図書館と研究室にはお世話になったと感じています。大きい机にありったけの教科書を広げ、調べたいことがあるときには、ぱっと立ち上がって必要な資料を探しに行ける。また、先生方に質問に行くと、丁寧に熱心に指導して頂ける。主体的に「頑張る」ことが出来る環境で、とても心強く、楽しく勉強ができました。

「頑張る」ことは、今の自分より良くあろうと、努力することではないかと思っています。やりがいのある教員という仕事に就くことが出来ましたが、まだまだ勉強の足りない部分が少なくありません。しかし、うまくいかないことがあっても、その反省を活かして次を成功させよう！という気持ちで臨んでいます。努力は必ず実を結び、と信じています。皆さんにも、それぞれの道で、精一杯「頑張って！」ほしいと思います。」

先輩からのメッセージ

物理学科

平成17年度卒業



日揮プロジェクト
サービス(株)勤務
富田 哲也

物理学科では、1・2年次には基本的な理論と実験について学習し、3年では量子力学や統計力学といった現代物理の基礎やより高度な実験手法について学びます。4年になると理論あるいは実験のなかから好きな分野を1つ選んで課題に取り組みます。私が4年次に選んだ原子核理論では、パソコンを使って量子力学の問題を解きました。それまで問題を解析的に解くことしか学んでいなかったのですが、数値的に方程式を解くことを通じて、抽象的な数式の内容を具体的なイメージとして実感することができました。

研究をしていくと思うように結果が得られず苦勞をしますが、試行錯誤して満足のいく結果に到達すると喜びが得られます。また、そうすることで理論的思考力や忍耐力が身についたと思います。

物理学科

平成18年度卒業



ウシオ電機(株)勤務
多賀 章弘

私の大学生活は本当に充実していたように思います。大学に通うには、学費・生活費のすべてを自分で捻出しなければなりませんでした。その辛さも多くの人たちに支えられることで楽しい大学生活に変えることが出来ました。

私の場合は、学部卒で就職しました。しかし学歴以外にも、この大学での多くの友人・先生方とのふれあい、キャンパス内に留まらない広い学びの場の探求が、今の企業で高く評価されていると感じます。

この大学でよい友人・先生方に恵まれたことで、社会に大きく羽ばたいていくことができていると思っています。

化学科

平成15年度卒業
平成17年度大学院自然科学研究科
博士前期課程修了

東洋紡(株)勤務

南原 慎太郎



大学では高校までと異なり、与えられる学習から主体的に学び実践する研究へ、その活動内容が変化します。勿論いきなり主体的に研究することは出来ませんので、それに必要な知識や技術を入学後2、3年の間に身につけます。

私は、合成有機化学の研究を行っていました。合成有機とは、簡単に言うと薬や化成品などの合成方法を確立する研究です。研究する上では、実験をこなすことは言うまでもありませんが、他者の論文や様々な知識をうることも必要です。なぜなら、いまだかつて誰にも見出されていない反応や物質を自ら見つけ出すことが目的であり、答えのないものに向かって答えを見出すわけですから、主体的に取り組み戦略と戦術を立てる必要が生じます。つまりより効率的に求める結果を出すために、どのように段階を踏んでどのような方法で研究を進めるか考えなければならぬのです。

大学で研究を進めるには勿論のこと、有意義な学生生活を送るためには、何より自分で考え行動する力、つまり自主性が最も必要です。これが、大学生活を送って私が強く実感した事です。皆さんは、自分で目標を定めそれに向かって研鑽し、実りのある大学生活を送ってください。

化学科

大学院自然科学研究科
博士後期課程在学中

ジーン フレデリック ガガベ
(フィリピンからの留学生)



My youthful dream of finding a cure for cancer has prompted me to pursue a career in chemistry. However, the more chemistry I learned during my undergraduate years, the broader my interests became, and my priorities somehow shifted. I was lucky to be awarded a scholarship grant by the Government of Japan, initially as a research student in the Analytical Chemistry Laboratory of the Faculty of Science. At first, my student life was a bit difficult. Homesickness, Niigata's cold weather and my Nihongo insufficiency added a lot of pressures on top of barely knowing what is going on in my research. I think that investment of more patience, faith and love in one's work, and continued hunger for knowledge are important aspects in pole vaulting the hurdles of studies. These, together with the guidance and support of my professor and colleagues, have driven me to the path where I am trekking now. My experiences in and out of the university have improved my "scientific intuition" and have widened my perspectives, not only to be methodological in research but also in life in a bigger and more complex world.



先輩からのメッセージ



生物学科

平成17年度卒業
平成19年度大学院自然科学研究科
博士前期課程修了

サントリー(株)勤務

水口 伊玖磨



生物学科では20数名の仲間と生物学についての講義や実習をはじめとしてとても多くのことを学びます。私の場合はさらに大好きなバドミントンとお酒を素晴らしい先生方、仲間と思う存分楽しんできました。

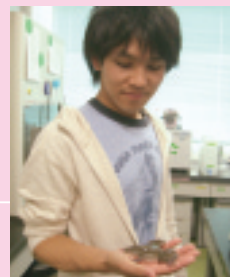
新社会人となった今、六年間の大学生活で培ったことの大切さを感じています。それは人間関係と根性！学生生活では楽しいこと以上に苦しいこと、悲しいことがあるとおもいます。しかしこの二つがあれば大抵の事は乗り越えられると信じて取り組むことで大きく成長することができます。そう言う意味では生物学科はとても充実した生活を送ることができます。大学でできた仲間は生涯の仲間。あつという間の大学時代を悔いの残らないよう全力で遊び泣き笑い学んでください。やってみなはれ！

生物学科

平成18年度卒業

大学院自然科学研究科
博士前期課程在学中

小宮山 恭吾



生物学科では、4年生から希望の研究室で研究活動(課題研究)を行います。それまでの3年間は、講義や実習が中心で比較的時間に余裕を持つことができます。そしてこの3年間でどう過ごしたかが卒業後の進路を決める上でとても重要なのです。理系=研究職と思う方が多いかもしれませんが、それは皆さん次第です。教員免許の取得や他分野の専門講義、サークル活動やアルバイト。私も自分の隠れた興味と可能性を引き出すために、生物学と直接関係のない様々なことに挑戦してきました。そして今は大学院に進学し、成果を学術論文として発表しようと日々研究に打ち込んでいます。専門科目を深く学ぶだけでなく、あらゆる要望に対応できるカリキュラムとサポートが新潟大学にはあります。志望の動機は「生物が好き」という気持ちだけで十分ですよ。

地質科学科

平成17年度卒業
平成19年度大学院自然科学研究科
博士前期課程修了

石油資源開発(株) 勤務

草宮 尚隆



私は、小さい頃から化石と岩石がなんとなく好きで、特に地球の歴史に興味があり、この学科を選びました。地質科学科は野外実習が多く、新潟県内はもとより日本各地を巡って調査、見学を行います。特に3年生の進級論文では、2週間以上仲間と共に生活し、野外調査を行います。泊りがけの実習が多く、少人数のため、仲間と非常に親しくなれます。

卒業研究では、福島県会津盆地周辺で野外調査を行い、約1,000万年前の会津地域の環境復元を目指しました。研究過程で、微化石分析、同位体比測定なども行いましたが、実験設備も充実しており、幅広い研究が可能です。

研究を通して専門分野の知識は身に付きますが、その他に、データを取得・解釈する力、問題点の発見・解決能力、提示する力、粘り強さ、体力なども培われました。これらは、多分野で必要な力ではないでしょうか。

地質科学科

平成17年度卒業

(株) 大光銀行 勤務

佐藤 早苗



地質科学科に3年次編入で入学して、あっという間の3年間でした。地質科学科に編入しようと思ったのは、理学部案内に書かれていた、「地球の地学現象の解明」や「地質調査」という言葉に、強く惹かれたことがきっかけです。地質学は、短大で学んできた分野とは全く違い、はじめは不安でいっぱいでした。入学1年目から、二人一組で沢調査を行い、地質図の書き方を学びました。

2年目になると、数週間みんなでキャンプ場生活し、一人で地質調査をして地質図を作成しました。一人で沢を歩くのはとても心細いものでした。この2年間でかなり度胸がついた気がします。3年目には、これまで勉強してきた基礎を活かし、課題研究を行いました。また、就職活動では、企業の方が地質科学科という部分に、非常に興味を持ってくださり、無事内定をもらうことができました。

全く知識のなかった私が、ここまでやってこられたのは、指導教員をはじめとする先生方の親切で的確なご指導と、学科全体のとてもよい雰囲気があったからだと思います。

そして、このような雰囲気の中で、身をもって地球を理解できるカリキュラムも素晴らしく、地質科学科での出会いと経験は、何ものにも代えられない人生の宝物になると思います。

自然環境科学科

平成17年度卒業

新潟県佐渡地域振興局 勤務

福井 滋



自然環境科学科の魅力、それは物化生地全ての分野を勉強できることです。自然環境という非常に複雑な系を理解していくためには、様々な学問分野からアプローチしていく必要があります。一つの学問分野に特化するだけでなく、他の分野の知識をつけていくことがこの学科ではできます。

私の大学生活で一番印象に残っているのは、4年次の課題研究です。一年間研究に打ち込むということは大変ですが、専門分野の知識だけでなく忍耐力や自信がつかえます。また、研究成果を一般の方々に発表する機会もあり、どのように説明すればわかりやすいか? というプレゼンテーション力を身に付けられます。

最後に、これから様々な困難にぶつかると思いますが、みなさんの若さで乗り越えてください!!

自然環境科学科

平成18年度卒業

大学院自然科学研究科
博士前期課程在学中

上原 隆伸



自然環境科学科では、3年次までに物理・化学・生物・地学の様々な事象について幅広く学びます。この学科で習う物化生地は、それぞれの分野で密接に関係しています。私はこの3年間で、物事を一つの見方だけではなく多方面から見る・考えることの大切さというものを学ぶことができました。このことは、自然環境・環境問題を考えることだけではなく様々な分野につながります。4年次の課題研究では、それまで幅広く学習してきた中から興味ある分野を掘り下げて研究することにより、自らの力へと変えていきます。私は地学系の研究室へ進み、1年間フィールド調査を主体とした研究を行いました。大変なことなどもありましたが、指導教員の先生方や先輩方そして仲間の力があり、充実した研究生を送る事ができました。行事が多く先輩・後輩とのつながりが強いことも自然環境科学科の特徴の一つです。この学科で学んだ4年間はいつまでも忘れられない良い思い出です。高校生の皆さん、自然環境科学科で地球の不思議を探ってみませんか?

学内関連施設



総合教育研究棟

General Education Research Building

主に1、2年生を対象に全学共通の講義を行っています。



保健管理センター

Health Administration Center

学生と職員の健康の保持・増進のために、健康診断、診察、健康相談等の活動を行っています。



総合情報処理センター

Integrated Information Processing Center

学内のコンピューターネットワークや情報処理の中核機能をもっています。



災害復興科学センター

Natural Hazards & Disaster Recovery

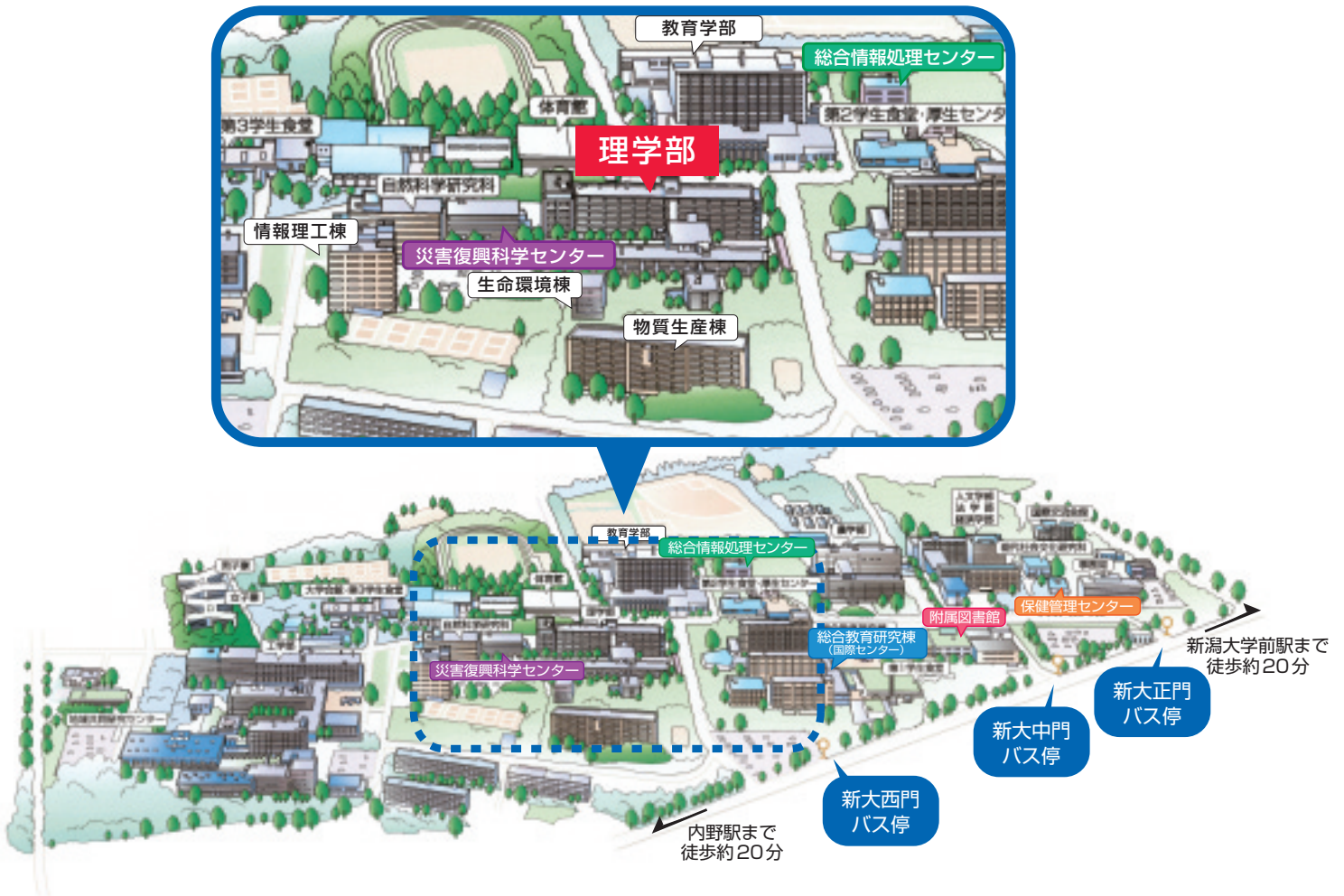
中山間地を対象とする自然災害等からの復興や防災・減災の研究を行っています。



附属図書館

Library

オンライン検索、視聴覚教材室、談話室等を備えています。本館の他、各学部、学科にも図書分室があり、約160万冊の蔵書があります。



理学部へのアクセス

□新潟駅から

●新潟交通バス利用

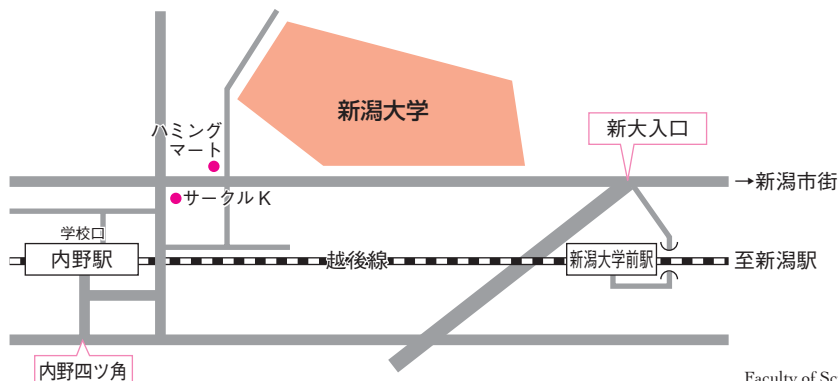
万代口バスターミナルの7番乗り場から601「西小針経由、新潟大学行き」または602、604「西小針・新潟大学経由、内野営業所行き」に乗車（所要時間 45分、450円）。「新大西門」で下車徒歩約3分。

●JR越後線利用

新潟駅から新潟大学前駅（所要時間 22分）下車徒歩約 20分、または内野駅（所要時間 25分）下車徒歩約 15分。両駅とも新潟駅から 230円。

□新潟空港から

新潟駅行きエアポートリムジンバス乗車、新潟駅または万代シティバスセンター前下車（所要時間約 25分、370円）。万代シティバスセンター前1番乗り場から「西小針経由、新潟大学行き」または「西小針・新潟大学経由、内野営業所行き」に乗車（所要時間 40分、450円）。「新大西門」で下車徒歩約3分。





新潟大学理学部

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050

TEL : 025-262-6106

FAX : 025-262-6354

●ホームページアドレス

<http://www.sc.niigata-u.ac.jp>